

生きる力を育む書写教育のありかた

～日常生活に生かす名前の指導方法の工夫～



第五部会

四街道市立山梨小学校

伊東 秀悟

研究主題

生きる力を育む書写教育のありかた ～日常生活に生かす名前の指導方法の工夫～

1. 主題設定の理由

「生きる力」の育成のためにも「伝統と文化の尊重」が強調されていることは周知の通りである。「文字」は、日本の伝統文化の原点であり、文字を正しく、丁寧に書く学習である書写の基礎基本を身に付けることは、全ての教科の根底に位置するものであると考える。

『小学校学習指導要領平成29年度告示解説国語編』の「第2章 国語科の目標及び内容」第2節(3)では、書写について「内容を理解し使うことを通して、各教科等の学習活動や日常生活に生かすことのできる書写の能力を育成することが重要である」と記載されている。さらに、「第4 指導計画の作成と内容の取扱い」の2カ(ア)においても「書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育てるように配慮すること」と記されている。これらのことから、書写は毛筆・硬筆の作品の出来栄だけではなく、「日常生活で生きる書写能力」を育成することを目指していることを踏まえて指導する必要がある。

四街道市では、小中学校での教育を「義務教育9年間を一体的に捉え、共通した児童生徒像のもと、学習面・生活面ともに系統化された教育活動」として系統的な指導を目指している。書写においても小学1年生から中学3年生までの「四街道市小中一貫教育学習マップ」が作成されている(図1参照)。その中で、小学校では「基本点画」「点画のつながり」「文字の組立て方」など文字一文字一文字に着目する記述が多くみられる。このような学習内容は、中学校での行書の学習や目的に応じた多様な表現に繋がっていくと考えられる。

小学校での書写は、教科書に載っている題材に沿って学習し、めあての達成を目指していくことが基本の学習の進め方である。その中で、「名前を書く」という場面に着目して考えてみると、小学校学習指導要領平成29年度告示解説国語編には、名前の書き方については明記されておらず、教科書でも名前について触れているページは非常に少ない。その理由の一つとして、名前は個々で使用される文字が異なり、授業内では扱いきれないことが挙げられるのではないだろうか。そのため、多くの教員が題材についての文字指導は行うが、名前については配置の指導程度がほとんどであると推測される。

近年、GIGAスクール構想による一人一台端末が配付され、ICT活用が問われている。急速な情報化が進み、学習の中でも以前より児童が手書きする機会が減り、タブレット等を活用した文字入力が増えつつある。しかし、「名前を書く」という場面に着目すると、今でもプリントやワークテスト等には、手書きで名前を記入する。さらに、社会の中でも公的な場面においては、デジタルの表記ではなく、手書きでの名前の記入を求められることが多く、ICT活用が推進されている近年においても「名前を書く」場面は多く存在する。

本校は、『主体的に学び、考え、表現する児童の育成～ICTの効果的な活用を通して～』を研究主題として取り組んでいる。そのため、教科を問わず、日頃からICTが活用されているが、書写では他教科に比べ、ICTの効果的な活用方法の検討は進んでいない。

本校の児童の様子に関して、名前の書き方に着目すると、書写の授業時には丁寧に文字を書く児童が多い一方、他教科のノートやプリントの文字をみると、字形が崩れてしまっている児童もいる。そのため、書写の授業を通して、日常生活でも生かすことができる能力を身に付け

る必要があると考える。さらに、児童が自分の課題を認識し、なおかつ、他者との話し合い活動を通して、自己評価・相互評価をし、新たな課題を見出せるような活動が必要である。そのような活動を通して、児童の文字に対する関心を深め、文字感覚を養い、文字に対する意識の向上を図っていくことは、書写力を日常生活で生かすことにつながり、さらに日本の文字文化を継承していく上でも重要であると考えられる。

以上の点から、本研究では、名前を書くという日常生活での基本的な場面に着目し、「日常生活で生きる書写能力」の育成に向けた書写教育のあり方を主題に設定した。

四街道市小中一貫教育 学習マップ(国語)

項	前期(小1～4)				中期(小5～中1)			後期(中2～3)			
	【1年】9	【2年】9	【3年】7	【4年】7	【5年】5	【6年】5	【中1年】4	【中2年】4	【中3年】3		
伝統的な言語文化	昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞く。	長い親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付く。	易しい文語調の短歌や俳句を音読したり、暗唱したりする。	ことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使う。	漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解する。	読みやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章を音読する。	古典について整理した文章を読んで、作品の内容の全体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知る。	音読に必要な文語の読み方や用語の仕方を知り、古文や漢文を音読する。	古典には様々な種類の作品があることを知る。	作品の特徴を生かして朗読する。	歴史的背景などに注意して古典を読む。
言葉の由来や変化											
書写	姿勢や筆記具の持ち、文字の形、筆順、点画相互の接し方や交わり方、長短や方向など。	文字の組立て方を理解し、形を整える。漢字や仮名の大きさ、配列。毛筆を使用して点画の書き方への理解を深め、筆圧に注意する。									
読書	読書に興味を持ち、いろいろな本があることを知る。	幅広く読書に興味を持ち、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付く。									
我が国の言語文化に関する事項											

図1 四街道市小中一貫教育 学習マップ(国語)(抜粋)

文部科学省「学習指導要領解説・国語編」

3. 研究仮説

〈仮説1〉

自分の名前の基本点画の課題が明確になれば、文字意識が高まるだろう。

(手立て)

- ・授業の始めに行う自分の課題の把握
- ・友達との交流を通じた自他の課題把握
- ・授業の始めと終わりに作品を撮影することによる、課題と成果の把握

〈仮説2〉

学習の進め方や教材教具等の手立てを工夫すれば、主体的に考え、基礎基本を習得することができるだろう。

(手立て)

- ・グループ活動やペア活動を通じた、自分や友達の子どもの振り返り
- ・地域人材を活用した名前のお手本の作成
- ・地域人材の授業支援
- ・ICT機器を活用した学習や振り返り
- ・水書用筆等を使用した練習

4. 研究計画

年度	時期	研究内容
令和4年度	11月	研究主題、研究内容検討(校内)
	12月	書き初め外部講師と名前についての情報交換 研究仮説の検討 実態調査項目検討・決定 地域人材への学習支援の依頼
	1月	『こどもひまわりサロン旭ヶ丘書き初め練習会』参観 第3、4学年：実態調査実施・集計 地域人材との学習支援についての打合せ 第3、4学年：地域人材を学習支援に招いた名前の指導(授業実践)
	2月	水書用筆と水書用紙の検討
	3月	第3、4学年：実態調査実施・集計及び考察
令和5年度	4月	地域人材への学習支援の依頼 研究内容検討(校内) 第3学年：実態調査実施
	5月	第3学年：実態調査集計 研究内容検討(校内) 地域人材との学習支援についての打合せ
	6月	地域人材との学習支援についての打合せ 第3学年：小筆で書こう～名前の練習をしよう～(授業実践) 第4学年：筆順と字形(授業実践)
	7月	実態調査実施・集計及び考察 実践内容及び研究のまとめ 提案資料作成
	8月	研究発表

5. 研究の実際

(1) 仮説検証の手立て

【仮説1・2検証の具体的な手立て】

検証方法①：実態調査の変容

文字意識を調査するためにアンケートを行う。授業実践前後で調査と集計を行い、結果より意識の変容を見る。

検証方法②：児童の作品の変容及び感想等の記述内容の読み取り

児童の作品の変容及び感想等の内容を用いて検討を行う。字形や点画の変化、感想等の記述内容を見る。

(2) 仮説検証実践

(A) 地域人材の活用

- ・本校の地域では、『こどもひまわりサロン旭ヶ丘書き初め練習会』を自治会主催で行っていることから、学校でも学習支援に活用できないかと考えた。
- ・個々の指導が必要な『名前の指導』に着目して、地域人材に個々の児童に対する学習支援を依頼し、授業展開をした。



こどもひまわりサロン旭ヶ丘書き初め練習会の様子

こどもひまわりサロン あさひがさか
旭ヶ丘
書き初め練習会 か れんしゅうかい

～学校の冬休みの書き初め課題を練習しましょう!!
地域のボランティアさんが指導してください。～

日時 令和5年1月5日(木)午前10:00～12:00
場所 旭ヶ丘自治会館
持ち物 普通用紙(筆・墨汁など)、書き初め用紙、
お手本、新聞紙、飲み物(水分補給のため)
※ 汚れても良い格好で来てください。

対象 小学生
指導してくれる人 地域のボランティアさん
参加費 無料 (おやつが出ます)

※ 自治会館までの往復の安全については、自己責任でお願いします。

お問い合わせ ☎043-375-4686 (旭ヶ丘自治会 平日:00～12:30)
旭中学校心社会福祉協議会
旭中学校地区民生・児童委員協議会
旭ヶ丘自治会 R4.12月

こどもひまわりサロン旭ヶ丘書き初め練習会のチラシ



地域人材を活用した授業の様子

(B) 水書用筆と水書用紙の活用

- ・第1学年時から使用している水書用筆を3学年以降も使用する方法を検討をした。
- ・様々な業者が出している水書用筆、水書用紙のうち、どこの業者のものが授業に取り入れやすいか検討した。その際、①容易に手に入れやすいもの②安価なもの③書き心地が毛筆に近いものをポイントに検討を行った。
- ・「繰り返し使用できる」「容易に使用できる」等の水書用筆の利点を生かし、名前の練習等で使用した。

(C) タブレット端末を使用した授業展開

- ・水書用筆を用いた際、文字が消えてしまう前にタブレット端末で撮影をした。撮影した作品を振り返ることで、自他の課題を把握した。
- ・名前の筆順を『漢字の正しい書き順(筆順)』(<https://kakijun.jp/>)のサイトを利用して、児童が自ら調べた。アニメーションや筆順のポイント等が載っており、児童が理解しやすいと考え、採用した。
- ・名前の筆順を正しく書けているか確認するために、ペアになって書いているところを撮影し合った。記録として残し、振り返りにも活用した。

(D) グループ活動やペア活動を通した相互評価の活動

- ・グループやペアで書いた作品と手本を見比べることで、自他の課題の把握をした。その上で、新たな課題を把握しながら学習に取り組んだ。

【授業実践】詳細は資料編についている指導案参照。

○第3、4学年 国語科 名前の練習をしよう

地域人材を活用した名前の練習を行った。

○第3学年 国語科 小筆で書こう～名前の練習をしよう～

水書用筆と水書用紙、タブレット端末を使用した名前の練習を行った。その際、地域人材の学習支援を活用し、個々に合った学習の展開を目指した。

○第4学年 国語科 筆順と字形

タブレット端末を活用して自分の名前の筆順を調べた後に、基本的な筆順で書く練習をした。基本的な筆順で書くことで、字形を整えて名前を書くことを目指した。



第3学年 国語科 小筆で書こう～名前の練習をしよう～の様子



第4学年 国語科 筆順と字形の様子

(3) 仮説検証の結果と考察

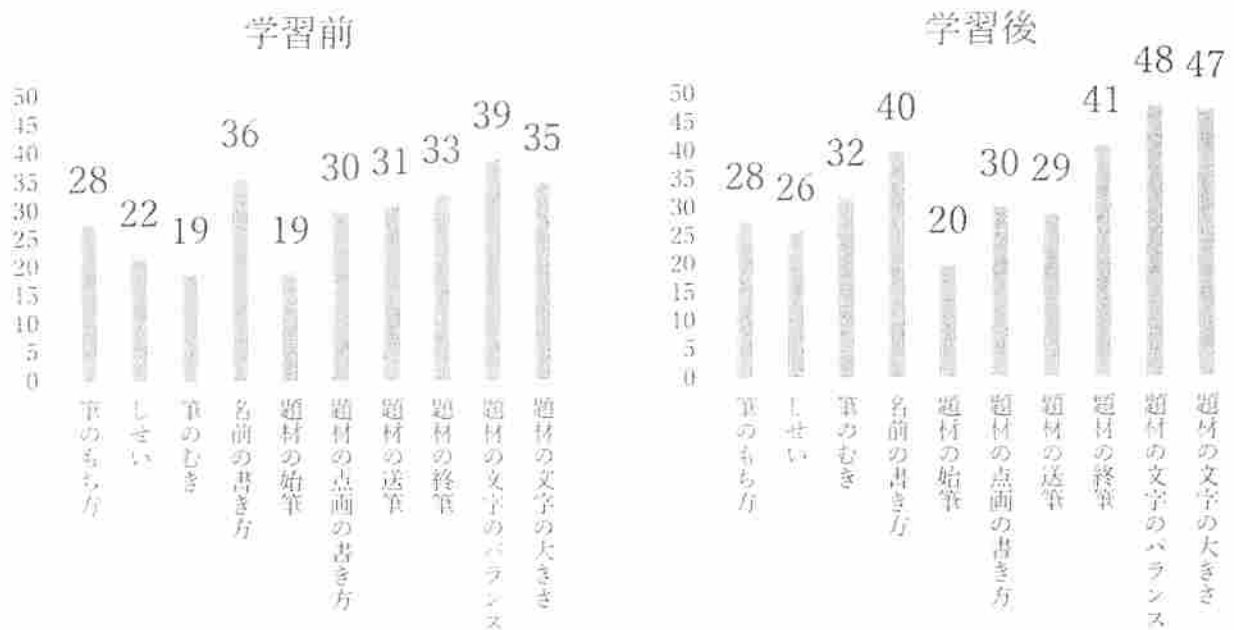
検証方法①：実態調査の変容（授業実践前後にアンケートを実施）

質問項目【書写の授業は好きですか】



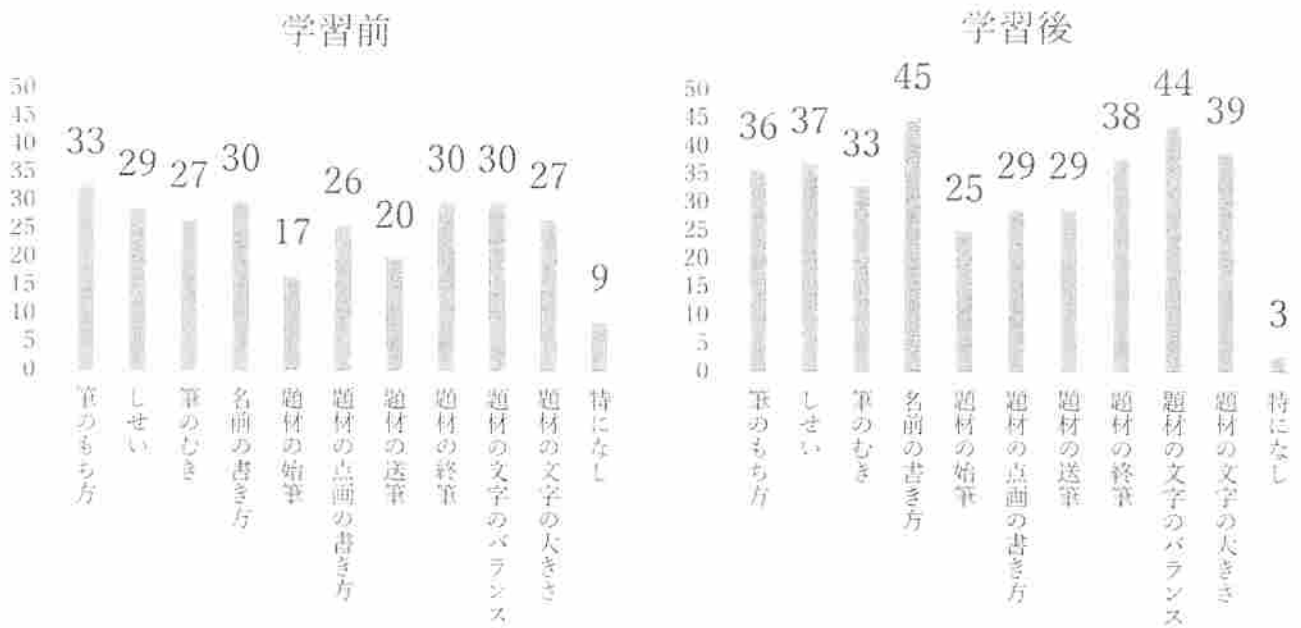
「書写の授業は好きですか」の質問に対し、「はい」と答える児童が68%から77%に増加している。このことから、児童の書写に対する意欲が向上していることが分かる。

質問項目【書写の授業でむずかしいと感じることはなんですか（複数回答可）】



「書写の授業でむずかしいと感じることはなんですか」の質問の学習前後の変化を見てみると、全体的に増加傾向にあり、減少しているのが1項目のみである。このことから、学習を繰り返すことで、以前に比べ書写に対する知識が付いてきたために、難しいと感じる項目が増えてきたと考えられる。

質問項目【毛筆の時、どのようなことに気を付けて文字を書いていますか（複数回答可）】



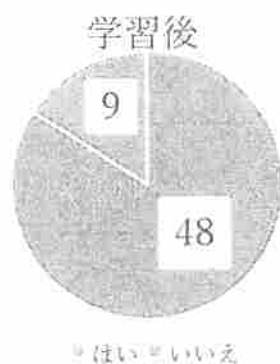
「毛筆の時、どのようなことに気を付けて文字を書いていますか」の質問の学習前後の変化を見てみると、「特になし」は減少し、その他の全ての項目で増加傾向にあることがわかる。特に、「名前の書き方」の項目は、最も増加しており、一番多い結果となっている。このことから、実践を通して、文字や名前に対してより意識しながら書こうという文字意識が高まったと考えられる。

質問項目【ワークテストやプリントに名前を書くときに気を付けていることはありますか】



「ワークテストやプリントに名前を書くときに気を付けていることはありますか」の質問に対し、「はい」と答える児童が39%から57%に増加している。このことから、児童の日頃から名前に気をつけようとする意識が向上したことがわかる。

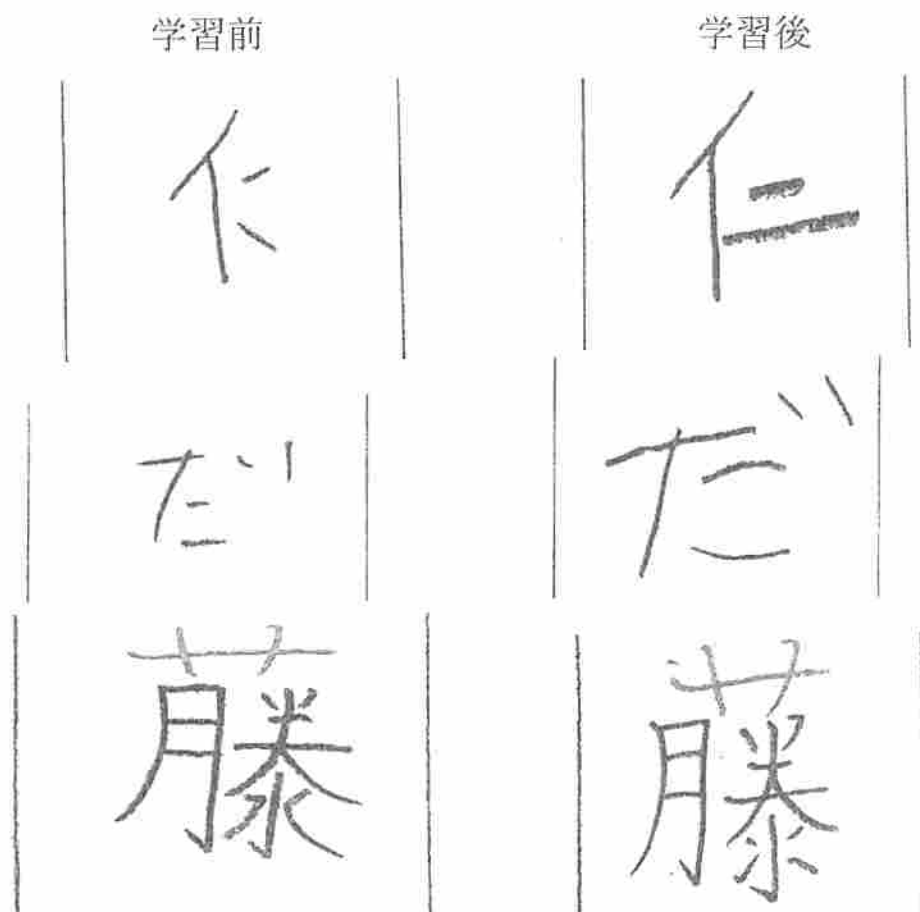
質問項目【名前の学習に進んで取り組むことができましたか】



「名前の学習に進んで取り組むことができましたか」の質問に対し、「はい」と答える児童84%であった。このことから、児童は進んで名前の学習に取り組むことができたと考えられる。

検証方法②：児童の作品の変容及び感想等の記述内容の読み取り

【児童の作品から】



学習前後の文字を比べると、点画の向きや始筆や終筆、字形に変化があるだけではなく、堂々とした文字を書いているように感じる。また、今まで異なった字を書いていた児童も名前の学習を行うことで、正しい文字で書くことができるようになった。

【児童の感想から】

戀はじめとおありで 斐の文のはらいぎを
つけたら、本に書けた。もと名前をじょうぶに
かきたい。

戀とめはねはらいをつかたううまくかけた
アト、バイスをまらしてはじめよりうまくな
けた。

戀大きさとめはね、はらいを気をつけてたら
書いたよ。
これから字のバランスや大きさとめはね、はらいを気
つけて書いていきたいです。

ふり返りカード
はねの頭が尖っていたの
でそれを気をつけて直し
ました。

ふり返りカード 自分の名前のはらいが
の、漢字の画目のはらいが
少し長か。だから今度は、
もう少しみじかくする。

ふり返りカード
書き順を正し自分の名前を書い
て次からもチェックして自分の名前
を書くとおもった。

児童の感想を見てみると、文字の基本である点画や終筆、大きさ等に関する記述が多く見られた。また、自分の名前の文字に着目して具体的な改善点を記述している児童もいた。さらに、「もっと上手に書きたい」「これからも気を付けていきたい」といったこれからの目標を書く児童も多く、児童の意欲に繋がっていると感じた。

【児童相互の評価カードから】

さんへ
止め、はね、はらいがひつ
じゅん通りにできているか
ちゃんと出来ていたよ!

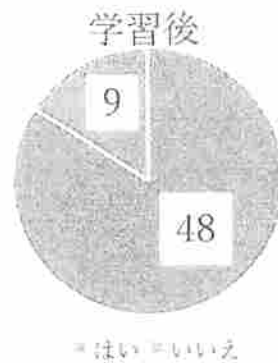
さんへ
筆順の大きさとまりと、その他の
きまりも両方とも書いていてとて
もよいと思いました。

さんへ くん、
藤の字の書き順も正しい
と思うし、めくりにていいね
ですごくうまくて何も言え
ないくらいよかたよ。

さんへ
さんの名前全音、バラ
ンスが良かったので字がしても
上手にできていてすごいと思
いました。すごいね!!

児童相互の評価カードを見てみると、お互いを称え合い、賞賛する記述が多く見られた。このような経験をすることで、「相手を意識した文字」を意識して書くことに繋がると考えられる。

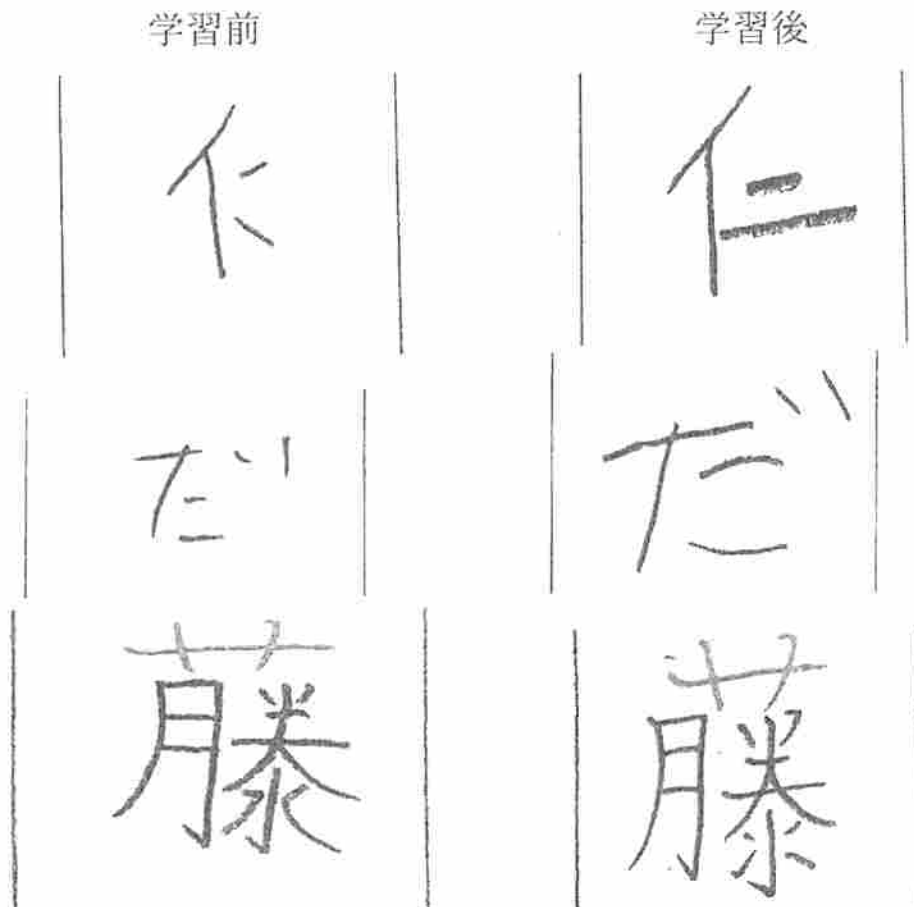
質問項目【名前の学習に進んで取り組むことができましたか】



「名前の学習に進んで取り組むことができましたか」の質問に対し、「はい」と答える児童84%であった。このことから、児童は進んで名前の学習に取り組むことができたと考えられる。

検証方法②：児童の作品の変容及び感想等の記述内容の読み取り

【児童の作品から】



学習前後の文字を比べると、点画の向きや始筆や終筆、字形に変化があるだけではなく、堂々とした文字を書いているように感じる。また、今まで異なった字を書いていた児童も名前の学習を行うことで、正しい文字で書くことができるようになった。

【児童の感想から】

感想はじめとおありで 斐の文のはらいぎ、さ
をつけたら、上本に書けた。あと名前をじょうざに
かきたい。

感想とめはねはらいをつかたらうまくかけた
あとバイスをもらってはじめよりうまくか
けた。

感想大ききやとめはね、はらいを気をつけてたら
書けたよ。
これからを字のバランスや大ききとめはね、はらいを気を
つけて書いていきたいです。

ふり返りカード
ハイルは藤の尖が尖^みな^りていたの
でそれを気をつけてたりしれど、

ふり返りカード 自分の名前のはらいが
の漢字の画目のはらいが
少し長か。だから次は、
もう少しみじかくする。

ふり返りカード
書き川頁を正し自分の名前を書
て次からをちゅういして自分の名前
を書こうとおった。

児童の感想を見ると、文字の基本である点画や終筆、大きさ等に関する記述が多く見られた。また、自分の名前の文字に着目して具体的な改善点を記述している児童もいた。さらに、「もっと上手く書きたい」「これからも気を付けていきたい」といったこれからの目標を書く児童も多く、児童の意欲に繋がっていると感じた。

【児童相互の評価カードから】

さんへ
止め、はね、はらいがひつ
じゅん通りにできているか
ちゃんと出来ていたよ!

さんへ
筆順の大ききまりと、その他の
きまりを両方まも、書いていてとて
もよいと思いました。

さんへ くん、
藤の字の書き川頁も正しい
と思うし、う、くりとていねい
ですごくうまくて何も言え
ないくらいはか、たよ。

さんへ
さんの名前全音区バラ
ンスが良かったので字がとても
上手にできていてすごいと思
いました。すごいね!!

児童相互の評価カードを見ると、お互いを称え合い、賞賛する記述が多く見られた。このような経験をすることで、「相手を意識した文字」を意識して書くことに繋がると考えられる。

6. 仮説に対する成果と課題

【成果】

- 名前は児童にとっても最も馴染み深い文字である。アンケート結果で「名前の学習に進んで取り組んだ」と答える児童が多数であり、学習後の感想で肯定的な意見が多いことから、多くの児童が名前の学習に主体的に取り組むことができたと考えられる。また、「もっと名前を上手に書きたい」「字のバランスや大きさ、とめ、はね、はらいに気を付けて書いていきたい」と答える児童もあり、日常生活においても文字をより良く書きたいという意欲に繋げることができた。
- 水書用筆と水書用紙を使用することで、道具の用意が容易で、短時間で繰り返し学習することができ、児童の意欲向上やより多くの活動時間を確保することに繋がった。それに伴って、一文字一文字の始筆や送筆、終筆の確認をしながらより多く練習することができた。
- 水書用筆を中学年や高学年でも使用する方法を検討することで、教師が水書用筆の利点や活用方法を再確認することができた。児童は、「とめ、はね、はらい」「文字のバランス」等に気を付けることが書くためのポイントであると気付くことができた。
- 「筆順と字形」の学習により、書き慣れた自分の漢字でも基本的な筆順を間違えて覚えていることに児童が気付いていた。また、筆順を調べることで自分の字形を整えるための基本の筆順を理解できた児童が多かった。
- タブレット端末を用いた、筆順の確認は児童主体で行うことができ、効果的であった。また、タブレット端末での写真や動画の撮影も振り返りや学習の積み重ねに活用できた。
- 身近な自分の名前の文字に着目したことで、自分の名前に愛着を感じるとともに、他の文字に対しても細かい部分を注意深く見たり、丁寧に書いたりする姿が見られるようになった。これは、「日常生活で生きる書写能力」の向上に繋がっていると考えられる。
- 地域人材の学習支援を活用することで、教師一人で指導する際より多くの児童に声をかけながら学習を展開することができた。また、「多くの人に自分の字を見てもらえること」は、児童の意欲にも繋がっていた。

【課題】

- 始筆と終筆が丁寧にできない実態があり、水書筆を用いた。結果として、一定の効果が得られた。しかし、より効果的に学習を生かすために、水書用紙で筆圧の確認を丁寧に行う必要があった。乾いていない部分に筆圧がかかっていることを助言したり、教員も水書板を活用して実際に文字を書いたりすればよかった。
- 水書用筆と水書用紙は、道具の取り扱いが容易で、繰り返し学習することができる利点がある反面、時間が経つと文字が消えてしまう。そのため、タブレット端末での撮影で学習前後の比較をしたが、机上のスペースや撮影までにかかる時間等で活用の難しさがあった。
- 地域の方と打ち合わせ後に授業を展開したが、地域人材の活用方法に課題が残った。本時のねらいをより具体的に示す必要があったと思われる。また、書写の学習時の地域人材活用について、より効果的な方法等の検討が必要だと感じた。
- 地域の方に名前の手本を用意していただいたが、書き手が教科書と異なる文字を使用することもあった。手本をお願いする際に、書体等の共通理解が必要だと感じた。

7. まとめ

本実践を通して、自分の名前に対してどこに気を付ければより良い字を書くことができるかに気付いただけではなく、自分の名前を大切にしようとする態度や他の文字も丁寧に書こうとする意識の向上もみられた児童が多くいた。

名前は、児童一人一人が異なる漢字であるため、個々に合った指導を展開していくためには多くの時間が必要である。しかし、自分の名前は一生大切になるものでもある。今回の実践の様子から、名前の学習に対して、多くの児童が意欲的に取り組む態度が見られていることから、名前の学習は児童にとって効果的な内容になると考えられる。

一方で、地域と連携した学習の在り方、書写の中での効果的なタブレット端末の活用方法等に課題が見られた。「開かれた学校」が謳われている昨今、書写についても地域と連携した学習により児童のより良い成長を目指していかなければならないだろう。また、タブレット端末の活用についてもより良い活用方法を検討していくことは、今後の書写学習のために必要となる。

今回の実践を受けて、日頃の名前についても丁寧に書くよう継続して指導していく。さらに、11月の書き初め指導においても、今回以上に丁寧に名前を書く児童の姿が見られることを期待している。

書写では「各教科等の学習活動や日常生活に生かすことのできる書写の能力を育成すること」が求められている。そのことから、日常生活で最も生かすことができるだろう『名前の学習』を学校教育の中に取り入れていくことは、児童にとって意味のある学習になるのではないかと、本研究を通して感じた。

8 主な参考文献

- ・文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年度告示）解説 国語編」東洋出版社 2018
- ・「小中一貫教育の推進に向けた教科指導連携の具体的な手立て」四街道市教育委員会 2023
- ・「小学校1、2年における『水書』を用いた書写指導について」株式会社呉竹 <https://www.kuretake.co.jp/product/calligraphy/suisho> 2023.1 閲覧
- ・「書写の疑問すべて解決」光村図書 <https://www.mitsumura-tosho.co.jp/webmaga/jugyoku/shosha-gimon> 2023.1 閲覧